

小学校外国語活動・外国語

1 小学校外国語科の指導と評価について

(1) 学習指導要領の考え方

- ① 新学習指導要領では、全ての教科等の目標について、①育成することを目指す資質・能力（何ができるようになるか）と、②教科等の特質に応じた学習過程（どのように学ぶか）を明示。
- ② 各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現
「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」
- ③ 外国語科の目標

第2章 第1節 外国語科の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

④ 育成を目指す資質・能力の三つの柱

- (1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

⑤ 小中連携

- ・ 小学校との連携に取り組んでいる中学校は、未だ全学校に至っていない。地域によって大きな差がある現状。
- ・ 「指導の系統性の確保」を大事にすることが必要。切れ目のない指導こそが実質的な連携である。

⑥ 評価の基本構造

学習指導要領の目標及び内容…資質・能力の三つの柱で再整理されている。

- ・ 各教科における観点別学習状況の評価の観点…「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理
- ・ 「学習評価の在り方ハンドブック（国立教育政策研究所）」の再確認が必要

(2) 指導と評価の実際

① 「知識・技能」「思考・判断・表現」の捉えについて

ア 「書くこと」（「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 第3編 事例3を基に）

- ・ Unit1 This is ME!（第7時の指導）
- ・ 単元の目標と評価規準（知識・技能、思考・判断・表現）との関係

【単元の目標】

自分のことをよく分かってもらったり相手のことをよく分かってもらうために、好きなものやこと、できることなど、自己紹介に関することについて具体的な情報を聞き取ったり、伝えようとする内容を整理した上で、話したりすることができる。また、自己紹介に関することについて、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて書くことができる。

【単元の評価規準】書くこと

○知識・技能

<知識>自己紹介に関する語句や I (don't) like ~. I can/can't ~. My birthday is ~. I'm ~. の表現について理解している。

<技能>好きなものやこと、できることなど、自己紹介に関することについて、書く技能を身に付けている。

○思考・判断・表現

自分のことをよく分かってもらうために、好きなものやこと、できることなど、自己紹介に関することについて、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて書いている。

イ 児童が書いたワークシートを使った評価の実際（「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 第3編 事例3を基に）

<児童2の実際>

「知識・技能」

自分の好きなことやできることなど、文字と文字、語と語の間隔に適切なスペースを入れている。また、どれも正確に書くことができているため、「知識・技能」においては「a 十分満足できる状況」になる。

「思考・判断・表現」

知識・技能としては十分に持っているが、を目的・場面に応じて関連付けていなし。内容に偏りがあるということになるため、「b おおむね満足できる」になる。

- ・ 「書くこと」についての「思考・判断・表現」で大切なことは、「児童が相手を意識しながら」活動しているかを指導者が見取ること。
- ・ 語順及び文の順序を意識することは、相手を意識することにつながる。

ウ 小中連携

- ・ 「読むこと」と「書くこと」は、小中の連携が重要。具体的に「mextchannel」で説明されている。

エ 「言語活動を通して」の捉え

- ・ 子どもたちは、何が分からなくて困っているのかを押さえること。その上で、子ども自身が意識できるような練習（その部分を練習）を取り入れる指導を大切にしてい。

2 小学校外国語科における1人1台端末の活用について

(1) 活用の具体例（遠隔授業の活用例）

小学校5年生「自己紹介をしよう」の授業から

- ・ 目的・場面・状況「市内のALTに自分のことを分かってもらったり、相手のことが分かったりするために自己紹介をする」
- ・ タブレット端末を活用し、市内のALTが児童の活動に参加することにより、児童は初めて出会うALTへの自己紹介等を行うことが可能となった。

(2) StuDX について

① 1人1台端末・ネットワーク環境の積極的な活用の推進

② 「すぐにでも」「どの教科でも」「誰でも」生かせる1人1台端末の活用方法に関する事例、本格始動に向けた対応事例などを情報発信・共有

(3) mextchannel (You Tube) の活用について

個人、学校の研修での活用ができる動画を配信

3 参考となる資料等について

(1) 小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編（文部科学省 平成30年2月）

(2) 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

小学校 外国語・外国語活動

（国立教育政策研究所教育課程研究センター 令和2年3月）